



みんな頑張った アプサラ公演！

微笑みの国カンボジアよりこんにちは！

今年は小泉首相がASEAN各国の首脳に提唱した「日本ASEAN交流年2003」、そして熊本国際化センターが支援するカンボジア王国にとっては、「日本カンボジア国交樹立50周年」の年にも当たり二重の喜びです。

当センターが在カンボジア日本大使館からのアドバイスをもとに企画しました8月の記念事業「カンボジア孤児舞踊団熊本巡回公演」と11月の「第3回朱印船の旅」は、外務省からも認定事業として認められ、招聘公演は県内市町村で開催され大変盛り上がりしました。郷土肥後藩とカンボジアは370年にさかのぼる歴史的特別な繋がりを持っているため、熊本城内の加藤神社境内で開かれた「来熊歓迎式典」には議会・行政・教育・経済の各方面から多くの参加者を得て、県内マスコミからも強い関心が寄せられました。

来熊したのは当センターが支援している、プノンペン市内の最貧民地区にある民間孤児保護施設「LDOMP」の孤児舞踊団メンバー、交流先である王立芸術大学指導者、当センターカンボジアスタッフ、カンボジア国営放送カメラマンの15名でした。



伝統舞踊アプサラ



あなたはサムライ？

初めの旅行、飛行機、高速道路……彼らの口から出る言葉は我が日本、郷土熊本は「最高」の連発でした。アプサラやココナッツボーイ（当センターが命名）たちは、今日まで王立芸術大学の学生ボランティアから伝統舞踊を学び続け、初めて海外で披露した自国の伝統舞踊に対する観客の反応のすごさに、改めて自国文化に強い自信を持ったようです。「日々前進」が当センターの売り、各公演会場や交流会場ともステージ進行や準備スタッフなどすべてがボランティア。プロを入れないでの実行委員会方式の「あったか手作り交流」は、その後の市町村の住民活動（コミュニティー活動）にそのマインドは活かされ、すでにいくつかの「支援プロジェクト」が育って来ています。住民と心温まる交流は、日本カンボジアの両国にとっても実り多い内容で締めくくられました。

残念な事に孤児施設「LDOMP」には伝統舞踊を踊るための衣装が無く、今回の来日公演に対しても当センターが現地専門衣装屋から高額で貸し出し準備しました。

当センターは今後充分に踊れるように衣装制作費US\$3000を支援する事にしています。

感動した見学体験コース

カンボジア孤児一行は、多くの人たちを魅了する伝統的なアプサラ（天女）の舞いを披露したほか、カンボジアでは体験出来ない多くの体験をしました。

幼稚園、老人施設、デパート、神社、テレビ局スタジオ、新聞博物館、演劇道場、NTT、市電、路線バス、消防署、劇場、などを精力的に見学体験し、日本社会を吸収しました。



巫女さんと語らうアプサラ達

「第3回朱印船の旅」派遣秒読み！

当センターの派遣事業は「日本カンボジア国交50周年」認定事業として11月6日から8日間カンボジアを訪問し、3都市で開催される記念式典等に参加します。

フンセン広場では来熊した孤児達や当センターの支援者達50名が、甲冑武者となり熊本のユカタやハッピー姿で「ロアム大盆踊り大会」に参加し熊本をアピールします。アンコールワット中央回廊部では昨年に続き「熊本友好セレモニー」を実施します。

お問い合わせ先：

熊本国際化センター（KIC）Kumamoto Internationalized Center

〒862-0971 熊本市大江3-10-34 TEL096-363-3939 FAX096-325-4466

Eメール yokinakama12@hotmail.com または karashirenkon@cen.megax.ne.jp

連絡携帯 090-9598-0666（谷川） 連絡携帯モード kic-ngo@docomo.ne.jp